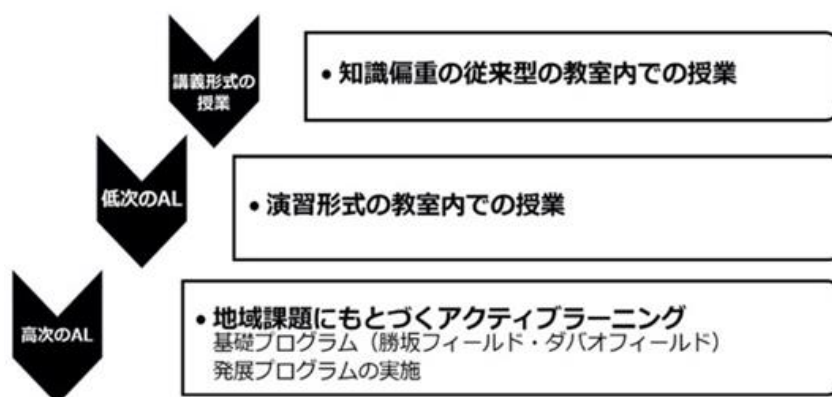


取組実績の概要（2 ページ以内）

1. 【本学独自の PBL 型アクティブラーニングプログラムの構築】

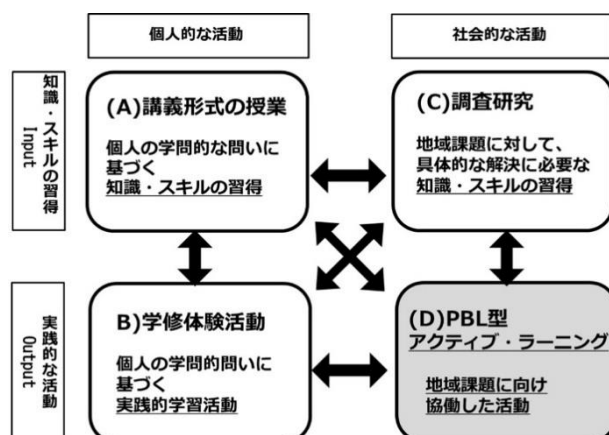
アクティブ・ラーニングという教育方法の背景には、従来の学修現場における「教員による一方向的な講義形式」の知識偏重型講義に対する批判がある。浜松学院大学の長期学外学修プログラムは、浜松市の地域課題である多文化共生と中山間地域にもとづく PBL 型アクティブ・ラーニングである。PBL 型アクティブ・ラーニングは、協働学修の形態を取り、プログラムの参加大学生が同じ目標の達成のために共に活動する事を通して自己の学びを深め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。浜松学院大学では、アクティブ・ラーニングを「一般的なアクティブ・ラーニング（グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等演習形式の授業）」と「高次のアクティブ・ラーニング（知識の活用を目的とした PBL・創成型）」に分類している。地域課題にもとづくアクティブ・ラーニングは、地域の特定の固有課題に取り組むことを通して、知識の活用や創造を目指す、「高次アクティブ・ラーニング」と言える。



1.1 学びを継続・発展させる PBL 型アクティブ・ラーニングの概念的枠組み

長期学外学修プログラム終了後にも、履修者が、継続的・発展的に取り組む活動として、実践共同体モデルを組み込んだアクティブ・ラーニングの概念的枠組みを構築した。

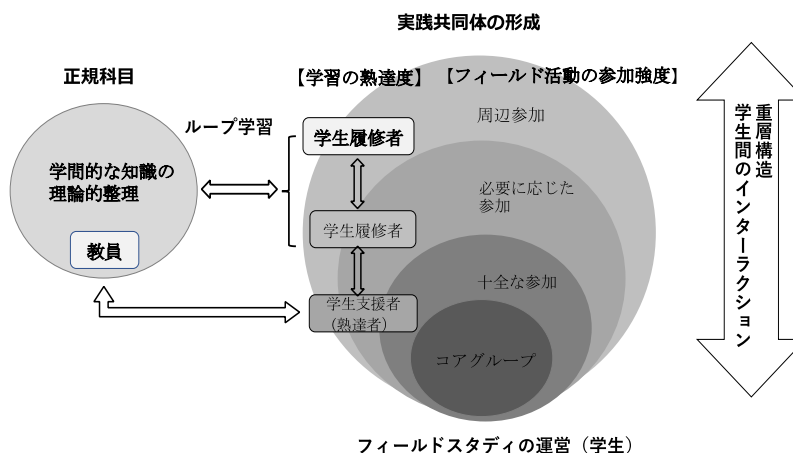
PBL 型の協働学修が個人的・学問的な関心や興味を喚起できない学生もいる。個人の学問的な興味・関心を地域課題の解決を目的とした活動に結びつける、あるいは、地域課題の解決を目的とした活動を個人の学修にフィードバックさせる学びに反映させる循環型の学びが求められる。これらを個々の実践的な活動（アウトプット）や他者と協働しながら実践活動へと向かうなど、個人の学問的興味と協働学修を融合させながら、補完し合うことで、個人の学修と地域における社会的な活動が循環する学びを実現することができる、協働学修の概念的枠組を表している。



1.2 学生と教員エンゲージメントを促す学修モデル

科目履修者が、引き続き履修後に地域課題の解決に向けてより主体的な関わりを実現する学修モデルである。

実践共同体：長期学外学修科目を履修した学生は、学生団体「わたぼうしグランドデザイン」を設立し地域課題に取り組んでいる。「熟達者」として実践共同体を構成し、翌年度の正規科目の科目履修者を「新人」としてフィールドにおいて周縁的参加から段階的に受け入れ研修している。さらに、近年の学生の自立型のキャリア志向から「ソーシャル・ベンチャー」のビジネスモデルを構築し、新たな事業展開するまで成長している。科目履修者は、履修者と実践共同体の2つのラーニングコミュニティに属することになる。



2. 【本事業による本学独自の多文化リテラシーの定義と評価方法の構築】

ダバオフィールドスタディは、2017年5月に戒厳令が発令され2019年末に解除まで、2019年の新型コロナウイルスのパンデミックにより、ダバオフィールドスタディを2回のみの実施となったが、2022年に実施予定の留学制度を見据えて評価基準を作成した。

2.1 多文化リテラシー

「自文化、自国文化を中心とした思考から脱却し、自文化との差異を理解し、多文化を承認することができ、異なる文化に接して、他者との対話や意見交換により問題を処理する能力」

2.2 記述語による5段階の尺度のルーブリック評価の策定

- 1 自国文化を中心とした思考に左右され、他文化を認めることができない。  
他文化と接する際に起きる様々な問題を全く解決できない。
- 2 自国文化を中心とした思考から離れることが困難で、他文化を認めることが難しい。  
他文化と接する際に起きる様々な問題を解決が困難である。
- 3 自国文化を中心とした思考からは、脱却できることもあり、他文化を認める努力をしている。他文化と接する際に起きる様々な問題について処理することに努める。
- 4 多くの場面で、自国文化を中心とした思考から脱却でき、他文化を認めることができる。  
多くの場面で、他文化と接する際に起きる様々な問題について処理することができる。
- 5 自国文化を中心とした思考から脱却でき、他文化を認めることができる。  
他文化と接する際に起きる様々な問題について処理することができる。

3. 【必須指標の達成度】

	平成 27 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
長期学外学修プログラムに参加する学生の割合	0.0%	8.6%	4.6%
長期学外学修プログラムに参加する1年生の割合	0.0%	25.0%	13.5%
長期学外学修プログラムを経た学生の成績評価[GPA平均]	—	2.80	2.80
退学率	2.30%	3.00%	1.8%
学生の授業外学修時間	3.44 時間	5.5 時間	5.88 時間
進路決定の割合	99.0%	95.0%	99.0%
学生が企画する活動数	5 件	80 件	32 件